

エリザベート皇妃 Kaiserin Elisabeth



エリザベートは、1837年12月24日のクリスマスイヴにバイエルン公の次女として生を受け、1854年オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世と結婚し、三人の皇女と皇太子ルドルフをもうけます。姑と衝突し、宮廷にもなじみず、また最愛の息子を自殺によって失った彼女は、傷心の旅の途中、ジュネーヴでイタリアの無政府主義者によって暗殺されました。そのドラマチックな生涯は映画や小説になり、ミュージカルは記録的な大ヒットとなりました。日本では宝塚歌劇団や東宝などで日本語版が公演され、成功を収めています。愛称は「シシィ」。

シシィゆかりの地を訪ねて

●シェーンブルン宮殿 <ウィーン>

革命政府軍占領時、ナポレオンが居住したあと放置されていたこの宮殿を、フランツ・ヨーゼフはエリザベートとの婚礼を機に改修し、第2のロココとも呼べる華麗なスタイルの宮殿で美しい皇妃を迎え入れました。

●ホーフブルク王宮・シシィ博物館 <ウィーン>

エリザベートとフランツ・ヨーゼフ皇帝の150回目の結婚記念日でもある2004年4月24日に、ホーフブルク王宮にある皇帝の部屋に、シシィ博物



館がオープンしました。婚礼の前晩に着ていた衣服、日傘、扇子や手袋、実際に乗れる贅沢な王宮サロン車などが再現・復興されています。様々な葛藤や確執により受けたストレスを発散させるため、宮殿にバスタブやスポーツ用つり革などを作らせました。ホーフブルク王宮を訪ねたら、絶対に見逃さないでください。運動器具のある宮殿は、世界中ここだけかも知れません。

●フォルクスガルテンの記念像 <ウィーン>

彼女の死後、フォルクス庭園に記念像が設置されました。1907年に除幕式が行われて以来、ブルク劇場を背に、美しい庭園を眺めながら、エリザベート皇妃は静かに微笑み続けています。

●アウグスティーナ教会 <ウィーン>

1854年4月24日、この教会で盛大に婚礼が執り行われ、美しい皇妃はウィーン市民から熱烈な歓迎を受けたのでした。教会の中の見ものは、向かって右手にあるマリー・クリスティーネの大理石のモニュメント。女帝マリア・テレジアの4女で、マリア・テレジアに一番可愛がられ、珍しく恋人と結婚することが許された皇女です。

ここには、ハプスブルク家の人々の心臓が保管してあるカベレがあります。

●カイザーグルト・皇帝納骨所 <ウィーン>

カプチーナ教会の地下は、ハプスブルク家の人々の納骨所になっており、特にシシィの棺にはいまでも献花が絶えません。

●ヘルメスヴィラ<ウィーン>

ウィーン西側の町外れにある広大なラインツァーティアガルテン内にあるヘルメスヴィラは、皇帝フランツ・ヨーゼフが彼女のために1886年に建てさせた離宮。シシィ自身が名付けたこの別荘は、ルネサンス様式の瀟洒な建物で、彼女のサロンの天井には、一部クリムトが描いたフレスコ画や、色ガラスの窓、体操室、大理石のレリーフなど、贅を尽くし趣向を凝らした造りになっています。

●マイヤーリングの狩りの館

1889年、皇太子ルドルフが男爵令嬢と心中した場所。事件は当時、ヨーロッパのみならず世界中に衝撃を与えるショッキングな出来事でした。後に「うたかたの恋」として人々に語り継がれ、悲劇の舞台となったこの狩りの館は、シシィの命によりネオゴシック様式のカルメル派修道院に建て替えられました。ウィーンからは、ウィーンの森半日観光バスのコースに入っています。

●カイザーヴィラ<バート・イッシュル>

美しい湖水地方ザルツカンマーグートの中心、バード・イッシュルにあるカイザーヴィラでは、皇帝の狩猟の道具やエリザベートの遺品が公開されています。ゆっくり見学されるには約1時間。カイザーヴィラ裏手には古いカメラや写真の展示館もあります。また、ここバード・イッシュルは2人が初めて出会った場所でもあります。



ミュージカル「エリザベート」(再演) / テアター・アン・デア・ウィーン劇場：
2004年9月10日～2005年4月21日 www.musicalvienna.at